

案件（２）公共交通の役割分担について

交通モード	各モードの特性	箕面市の公共交通網における役割
鉄道	・速達性や定時性に優れる ・大量輸送が主 ・運行のためには軌道や駅施設が必要 ・施設整備や運行には多大なコストを要するため、路線の変更は容易ではない	・箕面市と他の都市圏などを結ぶ広域的な輸送【阪急・北急・モノレール】 ・大阪都心へのアクセス【北急・阪急】 ・大阪国際空港や新幹線（新大阪駅）へのアクセスなど、長距離の移動の発火点となる【阪急・北急・モノレール】
路線バス	・軌道や駅施設がなくても、一定の幅員が確保された道路が整備されていれば運行可能 ・中量輸送が主 ・信号や交通渋滞など、道路交通状況の影響を受けやすい	・住宅街から主要な鉄道駅へのフィーダー輸送 ・一定の需要が見込まれ、営業路線として成立する地域の運行
コミュニティバス (オレンジゆずるバス)	・路線バスに比べると、より細やかな道路での運行が可能 ・小中量輸送が主 ・収支の不足分は自治体が費用負担する ・信号や交通渋滞など、道路交通状況の影響を受けやすい	・市内の主要な公共施設等を回る市内循環型の輸送 ・営業路線としては成立しないが、市民の移動にとっては欠かすことのできない地域の運行（路線バスの補完） ・持続的な運行のため、一定の採算性が確保できるだけの需要が見込まれるルートでの運行（これまでの目標は収支率 50%）
タクシー	・特定の路線を持たないため、個別の需要に応じた柔軟な輸送が可能 ・小量輸送が主	・バス車両では運行が困難なきめ細やかな輸送 ・大量、中量の移動が見込めない時間帯（早朝や深夜）の輸送
福祉有償 運送 (オレンジゆずる タクシーなど)	・特定の路線を持たないため、個別の需要に応じた柔軟な輸送が可能 ・小中量輸送が主 ・車いす対応の車両など、福祉目的に特化したサービスの提供が可能	・一般的なバスやタクシーではサービスの提供が不十分な要介護者や障害者等のドア to ドアでの輸送

新たな モビリティ・ 交通形態	・自動運転や AI による乗合調整など、新技術を活用することが想定される ・小型車両で複数グループの乗合による小中量輸送が主	・住宅からバス停までのファースト/ラストワンマイルの移動の確保 ・住宅から近くのスーパーなどへの移動手段の確保 ・技術の進展状況や事業性などについて、検討・研究が必要
その他※	・特定の活動等に伴い発生する輸送を目的とする ・各目的・輸送量に応じた車両が用意される	・保育園や学校、学習塾などへの送迎バス（スクールバス） ・特定の施設への来場者のためのシャトルバス ・特定のツアー客等のための観光バス

※現時点で、箕面市では、特定目的のためのバス車両や人員（運転士）を路線バスやコミュニティバスと相互利用することは想定していないが、将来的な人口減少、超高齢化社会の到来による公共交通の維持が困難な状況を見据え、相互利用の可能性を探るなど準備を進める必要がある。